

令和8年3月31日

世田谷区立桜丘中学校 保護者の皆様

世田谷区立桜丘中学校
校長 山本 武

令和7年度 世田谷区立桜丘中学校 自己評価 報告書

令和7年12月から、教職員を対象に今年度の教育活動に対する自己評価を実施してきました。その集計結果については別紙の通りです。また、令和8年1月から評価結果について、職員会議等で検討した内容についてまとめましたので、お知らせします。

1 令和7年度の重点項目への取組について

- (1) 確かな学力を育む教育の推進
- (2) 豊かな人間性を育む教育の推進

2 重点項目に関する取組状況について

(1) 確かな学力を育む教育の推進

学習指導要領の趣旨に基づき、キー・コンピテンシー育成を重視する。

- ①思考力・判断力・表現力の伸長のために、各教科においてカリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた探究的な学習（せたがや探究的な学び）や協働的な学習を意図的・計画的に実施する。

【この項目に関する自己評価】

職員会議等にて探究的な学習に関する研修を行い、各教科で授業実践に取り組みました。また、次期学習指導要領の改訂のポイントの1つである「主体的、対話的で深い学びの実装」についての情報提供を行い、探究的な学習や自由進度学習の試行をしました。本年度、全国学力・学習状況調査の結果は、東京都の平均正答率を超え、観点2（思考力・判断力・表現力等）に関する問題の正答率も上がっています。授業の成果や学習に取り組む態度の向上に関する成果は出ていると考えます。上級学校における学習も探究的な学習が進められていることから、今後も探究的な学習の在り方を追究することが重要だと考えています。

- ②個々の情報リテラシーを伸長するために、また、個別最適な学びを推進し学力向上を図るために、各教科内でICT機器の効果的な利活用を図る。

【この項目に関する自己評価】

デジタル機器の授業への利活用に関する生徒からの評価（先生はICTを利用して分かりやすい授業をしている）については、約93%が肯定的な評価をしており、昨年度の数値を上回っていることから、成果があったと捉えています。全国学力・学習状況調査においてもCBT方式が運用され、デジタルの活用スキルを上げることは教員にとっても生徒にとっても必須と捉えています。デジタルの活用は次期学習指導要領の改訂の趣旨にも表れており、今後、指導の充実の不可欠です。学習は地道に取り組むことも重要ですので、そのことへの理解啓発を継続的に行いながら、個々の認知能力を踏まえた学習方略の指導を通じて、個に応じた指導の在り方を追究していくことが重要だと考えています。

- ③グローバルな視点で物事を考え、コミュニケーション能力の向上及び英語力の向上を図るために、英語でのスピーチや外国人との交流・対話場面（ALTの活用）を設定した音声言語に関する授業、ESA

T-J対策に関する指導を重視して行う。

【この項目に関する自己評価】

外国語（英語）の学習においては、音声言語の学習を重視し、授業の構成も対話の時間を確保するよう取り組みました。その結果、ESAT-J YEAR3の結果も受験者の約55%がA評価であり、AとB評価の合計は約90%と成果が上がっています。5月にはマウントテイバー校の生徒を向かい入れ交流学习を行ったり、12月には第2学年でTGGでの英会話体験学習を行ったりし、英語を使う場面を設定するとともに、英語学習（音声言語学習）の意義の理解啓発を図ってきました。英語検定も多くの生徒が受験をしたり、世田谷区の海外派遣にも世田谷区の応募の約13%が本校生徒であったりと、国際理解教育や英語教育に関する意識は高まっており、それを維持・伸長することが重要だと考えています。

- ④生徒の運動・健康への関心を高め、健康的な生活を実践する力を高めるために、運動習慣の大切さや諸調査結果を活用した啓発、外部機関と連携した生活習慣病、感染症や食育、性教育、体力向上に関する指導を保健体育科・家庭科の授業を中心に行う。

【この項目に関する自己評価】

今年度は、インフルエンザの流行もあり、特に受験生には健康教育の重要性は高まっていると考えています。今年度は、世田谷区教育委員会と連携し、外部講師を招へいた「性教育」に取り組みました。性教育に関しては3年間継続して、外部講師を活用した授業を行ってきました。知識は持っていても、その知識を活用できるかどうかが重要になることから、さらに、継続的な指導も必要と捉えているところです。健康に関する知識を自分の生活に落とし込んで、それを実践する意識を高めることと、保護者への啓発が重要だと考えています。

- ⑤学びに向かう力及び知識・技能の定着を図るために、各調査・考査等の分析を行い、指導の焦点化を図る。特に、英語科・数学科で習熟度別指導等を展開し、個々の学力向上を図る。

学びに向かう力及び思考力・判断力・表現力の伸長を図るために、思考ツールを活用したり、体験的な学習を展開したりし、個々の学力向上を図る。

【この項目に関する自己評価】

今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、国語・数学ともに東京都の平均正答率を上回りました。これまで、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学校だよりで公表し、本校の生徒の学力の傾向や得意と苦手について公表してきました。また、認知能力検査を2年間継続して行い、個に応じた学習方略の指導を行ってきました。また、探究的な学習のフローを学ばせるとともに、これからの学習の在り方を指導してきました。学校関係者（生徒）アンケート「先生は、課題について自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」という質問に対する肯定的な回答は、約94%でした。授業も知識の伝達のみではなく、自ら考えることを重視したものになってきています。次期学習指導要領の改訂のポイントも「主体的・対話的で深い学びの実装」であることから、探究的な学習の在り方を研究し、各教科の授業実践に活かしていくことが重要だと考えています。

- ⑥自己実現を図ろうとする態度を伸長するために、地域・民間企業等との連携を深め、職場体験等の人と人との関係を大切にし、社会貢献等を含む己の生き方を考える指導を行う。また、上級学校等と連携した進路ガイダンスを充実し、進路実現を図る力を伸長する。

【この項目に関する自己評価】

進路指導（キャリア教育）については、1年次より上級学校について学ぶ機会を設定します。地域や学び舎とも連携し、2年次に職場体験学習を行いました。生徒の振り返りからは、礼儀や責任感

の大切さと働くことの意義について学んできている様子が伺えました。体験できる職種の幅を広げるために、民間企業と連携した取り組みも実施しました。振り返りの活動を充実し、進路実現への意識をさらに高めていくことが重要になると考えています。また、不登校の保護者を対象とした保護者会を実施し、進路先を考える機会を設けました。特に不登校巡回教員が配置になったことから、個別の働きかけも充実しました。3年生の家庭については進路に関して不安を抱えており、個別の支援が必要なため、本活動を継続して実施していくことが重要だと考えています。

(2) 豊かな人間性を育む教育の推進

生徒に実質的な活動の場を与え、主体的に判断・実践し、自立心を伸長する。また、生徒が互いに思いやり、自他の生命及び人権を尊重する意識を高める。

- ①基本的な生活習慣の確立とともに、心身ともに健康な社会生活を送る態度を伸長するために、よりよい社会づくりに必要となること（挨拶 規範意識 協働 多様性理解 寛容性 克己心など）を考える指導を行う。

【この項目に関する自己評価】

令和7年度は、感染症の影響で数クラスの学級閉鎖が発生しました。日常的な指導を行ってきましたが、健康に留意した休日の過ごし方や生活習慣の在り方をさらに考えられるよう生徒の意識を高めることが必要であると考えます。また、ポジティブ行動支援の生活指導を展開し、禁止ではなく、望ましい行動の在り方を考える指導を展開しました。挨拶への意識はかなり高まり、学校の日常生活の中でも挨拶があふれています。また、正装を通してTPOを考えた振る舞いについても考える機会を多くもちました。特に卒業式の姿は、卒業生・在校生（2年生）ともに立派で、相手意識が醸成されてきたと感じます。今後も、社会生活に必要な考え方を、課題を提示することにより考える学習を展開していくことが重要だと考えています。

- ②生徒が自ら考え、自立への意識を高めるために、対話を重視しながら教員と生徒の信頼関係を築くとともに、振り返りの活動を重視し、問題解決能力の伸長を図る。

【この項目に関する自己評価】

総合的な学習の時間では、自己理解を深めるとともに、他者との協働的な学習を進めることや進路実現についての探究活動を実施してきました。その結果、進路意識は非常に高まったと感じています。学校関係者評価（生徒）アンケート「学校は進路や将来の仕事に関する情報を提供している」の質問に対する肯定的な回答は80%を超えました。（昨年度約74%）また、昨年度に引き続き、定期テスト時についても合理的配慮について学校全体で検討し、個々の生徒が成果を上げられるよう努めました。個別の指導のためには、人的な支援が必要であり、今後もその課題が続くと考えます。学校だけでは対応しきれない部分も多いことから、関係機関や地域との連携を進めることが必要と捉えています。また、インクルーシブ教育の理念を実現できるよう努めていくことが重要だと考えています。

- ③不登校生徒の状態に合わせた支援を展開するために、不登校ガイドラインを活用し、早期発見と、休みの段階に応じた支援を行う。また、不登校状態が長期化する生徒の支援のために、不登校巡回教員を活用し保護者等と連携しながら、個々の状況把握とニーズに応える指導を迅速に展開する。

【この項目に関する自己評価】

不登校巡回教員が配置になったことから、不登校巡回教員のガイドラインを策定し、職務分担について明確にしました。年間計画に基づき、校内別室支援・家庭訪問・個別の対応を図り、どこにもつながっていない生徒の割合は、減少しました。進路についても学級担任と連携した指導・支援を行い、多くの不登校生徒の進路決定にも結び付けることができました。今後も、多様化す

る生徒への対応力を上げるために、関係課機関の連携を視野に入れ、個々のニーズに応じた指導・支援を行っていくことが重要だと考えています。

- ④社会生活に向け、身に付けさせたい行動を育てるために、場面（時間 挨拶 責任感）ごとに行動目標を設定し、学校全体ですべての生徒を対象にポジティブ行動支援の視点で生徒の行動を認める指導を行う。

【この項目に関する自己評価】

今年度も継続してポジティブ行動支援の生徒指導を展開してきました。今年度も挨拶・時間を守ること・責任を果たすことの3点について、学期ごとに自分の行動を振り返ったり、集団としての評価を行ったりしてきました。挨拶については、日常的に校内でも教員と生徒が交わす姿が見られています。時間を守る意識も高まり、各学年では、始業前の着席を徹底しようとする行動が見られています。学校行事の際の実行委員にも多くの生徒が立候補をしてくれています。生徒の行動の積極性を引き出すよう、望ましい行動を認める働きかけを継続することが重要だと考えています。

- ⑤生徒が自らの個性や能力を伸長し、将来の夢への展望をもって進路実現を図る意思を伸長するために、キャリア・パスポートを活用した3年間の系統的な指導計画を作成し、各教科指導と関連させ発達段階に応じた指導を行う。

【この項目に関する自己評価】

キャリア・パスポートについては、記述内容の統一化を図るとともに、振り返り活動を重視しました。また、「なりたい自分像」を描き、そのために計画・実行する力を高めるよう取り組みました。本校ではキー・コンピテンシーの育成を目指しています。その中の一つが「計画・実行する力」であることから、学習計画を立てたり、行事予定を考えたりして、生徒が計画的に、そして実践を振り返りながら、自分で進路を考え行動する力を高めるよう努めました。本校では、1年次より自己の生き方について指導を行っています。指導内容の改善を図りながら、進路実現に向けた意思をさらに高めるよう努めていくことが重要だと考えています。

- ⑥情報モラルに関する問題への意識を高め、問題の未然防止を図るために、スマートフォン利用に関する注意喚起を計画的に行い、全校生徒へ学校ルールの指導を徹底するとともに、ネットリテラシー醸成講座等を活用した指導を通年で継続的に行う。

【この項目に関する自己評価】

学習用タブレットやスマートフォンの利用については残念ながら今年度も多くの課題が見られました。また、スマートフォン等の利用時間も年々増加傾向にあり、その依存度が高くなっていることも本校の特徴としてあります。いわゆる歩きスマホを地域の方に指摘されることもありました。スマートフォンの校内利用については、制限をかけました。スマホの使用については、適切な利用を考える生徒も増えてきましたが、いわゆる児童ポルノ法に抵触するような事案もあり、保護者へ啓発することもありました。生徒が学校内においては直接的な交流を増やしたり、読書に親しむことに注力したりするよう取り組み、心の教育に努めてきましたが、情報モラルという点では、さらにしっかりと知識を持つ取り組みを継続して行うことが重要だと考えています。

- ⑦災害に備えた安全な生活への意識を高めるために、避難訓練の定期的な実施、引き取り訓練、台風や津波等に備える指導を家庭・地域と連携して行う。また、適時的に情報発信を行う。

【この項目に関する自己評価】

地域での防災意識の高まりもあり、今年度は、外部機関と連携した不審者対応訓練をしたり、大

人が周りにいない場面での避難訓練を実施したりと、これまでよりも深みをもたせた訓練を行いました。避難行動は意識が高まり、迅速な行動が取れるようになりました。また、区教育委員会から生徒一人一人に防災ヘルメットの貸与があり、ヘルメットを利用した避難訓練も実施しました。想定外の災害に備えるためには、日ごろの備えが重要です。今後も地域と連携した安全確保の取り組みを進めていくことが重要だと考えています。